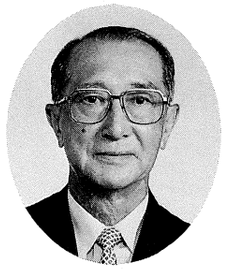
年頭の御挨拶



明けましておめでとうございます。皆様には佳き新年をお迎えのこととと存じます。

今年をもって二十世紀も終わろうとしております。明治、大正、昭和、平成と百年の間に四つの時代を経てきました。

良い時、悪い時とめまぐるしく移り変わりがあった中で、皆様は無事に生き抜いてこられました。誠に強運の持主達と思います。

しかし、世紀が終わろうという時に、我が日本国はボンヘッドで自己主義な議員によって大変な時代が招来されており、下手をすると諸外国の恰好の餌食になろうとしております。

永年日本を見てこられた皆様方は、どうしようもなく歯がゆい思いをされていることでしょう。しかしながら、日本の国民には良い頭脳を持った人が多く、きっと良い方向へ進むと期待しております。

素晴らしい新世紀を迎えるために、日本の国を大切にし、皆で日本を守りましょう。新年に当り感想を申し述べました。

本年も皆様がご健勝ご多幸に過ごされますよう祈念申し上げます。

辰巳会会長　鈴木治雄

全国大会報告

平成十年五月十九日(火)／於：京都「新都ホテル」

今年の大会も、今まで幾度も開催された古都京都にて晴天の中、会場は新幹線の改札に近い「新都ホテル」と足場も良く、三十七名の御出席者が得られました。

大会は前例に従って横田幹事長の開会の辞に続き、鈴木会長が「鈴木商店終焉時の小学生は今満八十歳」と御自分の話を皮切りに、世相を抉り「ここ数年は個人の力量で耐えねば成らぬ時期、御発展で無く御堅持を御願いしたい」と挨拶されました。次いで松下幹事より会務報告があり、特にこの一年亡くなられた八名の方の詳細な説明と、祥龍寺合葬者が千百七十一名になったとの報告され、其の後全員で黙禱による御冥福を祈りました。

乾杯の音頭を神戸製鋼・播磨造船とお勤めになった立花實様に御発声戴き、宴会に入りました。宴の中九十歳の木下清三郎様より「鈴木商店・帝人・帝人精機・東洋自動機と五十三年の勤務を、テニス・ダンス等のエピソードを交えて、悔いの無いと自負出来る人生」と御話戴きました。また、途中乍ら鈴木会長のエージシューターの話が飛びだし、「この五月三日広野ゴルフクラブにてアウト三十八・イン四十一」と告白される場面もあり、この他に会としては初めてのカラオケが入るという楽しい大会に成りました。

なごりは尽きぬ中、安東幹事の閉会の辞で午後二時過ぎ、再会をそれぞれがお約束され散会と成りました。

平成十年　全国大会式次第

平成十年五月十九日(火)／於：京都「新都ホテル」

司会進行役　柳田辰巳　本部幹事

一、開会の辞　横田幹事長
一、会長挨拶　鈴木会長
一、会務報告　松下幹事

宴

一、乾杯
一、スピーチ
一、閉会の辞　安東幹事

以上

平成十年　全国大会出席者名簿（順不同・敬称略）

平成十年五月十九日(木)／於：京都「新都ホテル」

安東　浄	木下清三郎	森　好子
井上好正	楠瀬正明	柳田辰巳
今村三郎	鈴木治雄	柳田政江
大谷淳子	高畑薫幸	横田周作
小野晶子	高畑喜代子	横田よしこ
小原多喜子	立花　實	河野芳子
金子孝蔵	建部清也	吉田春江
金子貞子	建部和子	山室雅子
金子　峻	坂東みどり	鷲尾千鶴子
東條佳子	広井千鶴子	金野和夫
東條　賢	堀内　昇	川崎雅子
釜崎とし子	堀内安代	計　三十七名
北野浅美	松下重男	（敬称略）

わたしの道　②

ニクソン・ショック―前兆に危機感抱く

速水　優

――日銀入行後は主に国際畑を歩かれ、ロンドン駐在参事として一九七一（昭和四十六）年のニクソン・ショックを迎えるわけですね。

速水　ニクソン・ショックの前に、大きな状況の変化が二つありました。一つはアメリカが基軸通貨のドルをたれ流し、世界中に余剰ドルが累積したことです。私がニューヨークに駐在していた六五年に、ジョンソン大統領が有名な「バターも大砲も」という演説をしている。国内の人種対立の緩和や福祉の向上にカネをかけると同時に、ベトナム出兵を進めるという意味です。結局、これがオーバー・コミットメント――力以上の約束――になり、双子（財政と国際収支）の赤字を生んでいった。

――もう一つは？

速水　無国籍で自由なユーロダラー市場の誕生です。準備預金などの規制がないので、アメリカ国内の銀行を使うより有利だし、東欧などの国にとっては米国政府による政治的な「預金凍結」の心配もない。このため、私が最初にロンドンに勤務した六〇年前後から、ロンドンを中心にグローバルな金融市場が急成長した。増え続ける余剰ドルが、ユーロ市場という舞台を得て、不気味な動きを始めたのです。

――八月十五日のニクソン・ショックの前兆は。

速水　あの年は年初から二度目のロンドン勤務でした。ドルはまず西独マルクに対して売られ、五月には西独連邦銀行も支えきれなくなって、変動相場制に突入しました。八月に入ると、欧州通貨に対するドル売りの動きが再び強まった。私は家族と大陸のバス旅行に行く切符を買ってあったのですが、「危ない」と思い、一人だけロンドンに残った。留守にしていたらクビだったでしょうね（笑い）。

――第一報はどこから？

速水　十四日の真夜中に新聞記者が電話で「アメリカが金の輸出持ち出し禁止を発表したらしい」と。その直後に本店の藤本（厳三）外国局長から「アメリカが今回の措置について、ロンドンで各国に説明する。日本から人を出しても間に合わないので、君が出席してほしい」と電話がありました。それで、イングランド銀行（イギリスの中央銀行）に頼み、翌日、市内某所で開かれる説明会に参加できるよう取りはからってもらったのです。

――説明会の雰囲気は。

速水　アメリカは後に連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）議長になったボルカー財務次官が説明に当たりました。金・ドル本位制ということで、金一オンスが三十五ドルと決まっていたのをアメリカが一方的に崩した。これは明らかに国際通貨基金（ＩＭＦ）の規定違反ですよ。西独連銀のエミンガー副総裁（後に総裁）など、欧州の通貨マフィアは「アメリカはドルの交換性をいつ、どのように回復するのか。それを言ってくれない限り、われわれは外為市場を再開できない」と、きつい言い方で。さすがのボルカーさんも「私は交渉ではなく、決めたことを報告に来たのだから、そんなことは……」と守勢一方でしたね。

――あの時、日本だけは外為市場を閉めず、日銀がドルの買い支えを続けました。その見返りに国内に放出された円がやがて過剰流動性を生み、後の「狂乱物価」の一因になったわけですが。

団の冬期演習が始まりました。零下二十五度以下の雪の中で一週間野宿するのには驚きました。凍傷、凍死、逃亡等演習が終るとすぐ聯隊で十五名程度の戦病死者葬儀です。兵隊を死なせて迄冬期演習を毎年やらねばならないのかと疑問を持ちましたが、これが関東軍の強さの秘密かも知れません。三月に入ると聯隊長に呼ばれました。「君は工兵の将校には向いていない（役に立たない）から野戦兵器廠に転属だ」と云われ三月四日に鶏寧（ケイネイ）の第十六野戦兵器廠に着任しました。

二十年五月一日に「と号演習」と称してすべての武器弾薬を持って後方に向けて演習が開始されました。愛河（エッカ）、海林（ハイリン）、一面波（イメンパ）と撤退移動をして一面波に於てウラル山脈の山中に洞窟を掘り武器弾薬を隠す作業を行っていました。六月十五日になり突然「本土決戦要員として穴掘りの将校が必要である野戦兵器廠に工兵の将校は居らぬか」と問合せが入り小生と丸田見習士官の二名は中部軍管区司令部に演習参加を命ぜられ急遽六月十五日清津（セイシン）（現在北鮮のチョンチン）に赴き関東軍、中支軍の本土決戦要員と合流しました。後で分った事ですが、既に朝鮮半島は暴動が起り、列車にて南下する事が出来なかった為清津から船に乗る事になったようです。吾々は輸送船八隻に分乗（約四千名）駆逐艦、潜水艦四隻に護衛されて十五日に出航しましたが、出航後すぐ護衛の海軍は四散して了い、連日連夜敵の潜水艦による魚雷攻撃を受け、舷側すれすれの事も数度ありました。沖縄作戦が既に終了して日本海の掃討戦に入っている中を島影づたいに逃げ乍ら航行するのでつぎつぎに沈められ、山口県の仙崎港に着いた時は僅かに三隻になっていました。通常一日半の航海が何と十日もかかり食糧がなくて、大豆のおも湯の食事でしたが、食事のたびに階級を剝がしての殴り合いが連日見られました。今でも仙崎に上陸した際に国防婦人会の方から頂いた一個の握り飯の味は忘れられません。日本の匂いと味が心に沁みました。そして奇蹟的に生きて帰れたのは工兵であったお蔭と思うと人生の不思議な因縁を感じざるを得ません。

六月二十五日下関に一泊、二十六日大阪駅前にて大阪軍管区司令部の命令を受領、原隊である善通寺工兵隊に約一年半振りに帰還しました。

当時大阪市内は全くの焼野ケ原で昼食のため八聯隊迄歩いた事を思い出します。

七月二日独立工兵第一一四大隊を編成、古参の見習士官である小生は中隊長代理を命ぜられ、第二国民兵ばかりの兵隊を預り訓練に励みましたが身体障害者が多く戦斗に役立つとは思えない状況でした。また装備と武器は兵隊に、銃はあるが剣に鞘がなく（竹で各自が作る）、飯盒の代りに飯骨李（ハンコツリ）、水筒の代りに竹の筒と云った状態で、弾丸は一人に僅かに三十六発、それに手榴弾が二発（一発は自決用）と云う貧弱なもので今思えば敗戦は時間の問題でした。

しかし山口県の黒井、川棚、小串、湯玉の坑道作業（穴掘り）を全員懸命に従事中、八月十五日の終戦を迎えた次第であります。その後少尉に任官、九月三日に復員して疎開先防府市の両親のもとへ帰宅しました。帰宅後、大学に復学し、翌昭和二十一年九月無事大学を卒業して十一月に日商岩井㈱（当時は日商産業㈱）に入社する事となり四十二年間のサラリーマン生活を送って現在に至る訳でありますが、このサラリーマン生活についてはまたの機会に譲る事と致します。

軍隊生活は約二年間の短い期間でありましたが、正に波乱万丈で、いま思い出して自分の強運に感謝している今日この頃であります。

以上

辰巳だより会

本部新年例会報告

平成十年度　辰巳会
新年例会出席者名簿
平成十年一月二十日㈫
於・神戸「第一樓」
（敬称略）

安東　浄	須藤　欣吾
金子　孝	坂東　みどり
金子　貞子	武藤　秋
東條　佳子	松下　重男
北尾　素子	柳田　辰巳
木下　清三郎	金野　和夫
木村　毅	川崎　雅子
楠瀬　正明	計十六名
鈴木　治雄	

本部　秋季例会

平成十年十一月五日（水）
「桂林」での会食と
「新神戸オリエンタル劇場」での観劇

今年の秋季例会は、見事な秋天のもと辰巳会の地元神戸で開催されました。

晴れやかな鈴木会長、横田幹事長を初め、遠路東京からご参加の西川明子さん、田代ヨシ子さん、多治見の小原多喜子さんの姿も見え、二十九名の参加となりました。

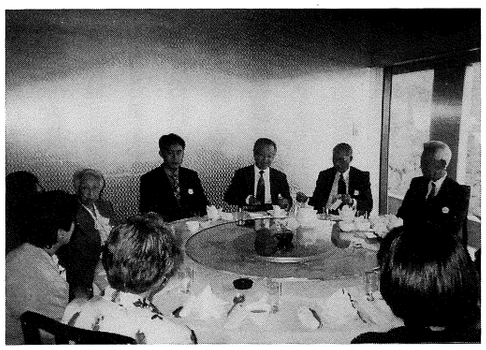
横田幹事長の挨拶、鈴木会長の乾杯に始まった「桂林」での会食は、窓に青空と神戸の街を望みながら終始なごやかに進みました。また、お料理もほとんど残ることなく、改めて皆さんのご健康が慶ばれたことでした。

会食の後、「新神戸オリエンタル劇場」での観劇へと場を移しました。

「新神戸オリエンタル劇場」は、新神戸オリエンタルホテルの中にあるユニークな劇場です。小さな劇場ですが、座席がゆったりして気分良く観られます。当日の演目は、二人芝居ということで、最適の劇場ということになりました。

演目の「愛は謎の変奏曲」は、イギリスのエルガーの名曲「謎の変奏曲」に想を得て、フランスの作者エリックが書いたものですが、結局は愛をテーマにしたものです。またこれは、パリで大好評を博した翻訳劇ですが、私達にも見応えのある素晴らしい劇でした。

仲代達矢、風間杜夫の名演技と幾度もある〝どんでん返し〟に飽きることがありませんでした。何度ものカーテンコールの後、午後五時前に終幕となり、私達も再会を約しながら散会しました。



辰巳会本部秋季例会出席者
平成十年十一月五日㈭
於・「桂　林」
新神戸オリエンタル劇場
（五十音順・敬称略）

足立　せつ	西川　明子
安東　浄	坂東　みどり
安東　恒子	武藤　秋
大谷　淳子	松下　重男
鵜崎　淑子	森　好子
小野　晶子	柳田　辰巳
小原　多喜子	横田　周作
金子　孝蔵	横田　よしこ
金子　貞子	河野　芳子
金子　峻	吉田　春江
東條　賢	山室　雅子
釜崎　とし子	鷲尾　千鶴子
楠瀬　正明	金野　和夫
鈴木　治雄	川崎　雅子
田代　ヨシ子	合計二十九名

東京支部　新年例会

平成十年一月二十二日㈭
於・築地スエヒロ

今年の正月早々の八日㈭の東京地方は大雪に見舞われ、交通機関はズタズタになり大変難儀を余儀なくされましたが、一週間後の十五日㈭にも雪が降りウンザリしていましたところ、週間お天気予報によれば例会のある二十二日㈭も、晴天の高気圧が東に去り下り坂のマークとなり、お天気が心配されましたが、例会当日には雲一つない快晴に恵まれ、気温も温暖な春日和となり爽やかで、足許も良く、新春らしく清々しい気持がする今日の東京地方。恒例の東京支部新年例会が、此処おなじみの築地スエヒロで行われました。東京支部の例会はいつもお天気が良くなり誠に有難いことであります。（因に翌日は寒冷な雨模様でした）今年はきっと明るい心暖まる佳き年になる予感がしました。

新春に気分爽快辰巳会　　三郎

皆さん益々お元気で会場ロビーで、にこやかに新年のご挨拶を交換され、華やいだ楽しい雰囲気を醸し出されました。本日の出席者総員十六名。

正午過ぎに、皆さんお揃いになられたところで、扇の簾をバックに記念撮影。着席して、芦原幹事さんより開会の挨拶と会の式次代の案内があり、先づ平成九年の物故会員のご冥福をお祈りし全員で

黙禱を捧げました。又、本年めでたく星子大様、米倉勇様が米寿を安東浄様、松下重男様が喜寿を迎えられる事を、皆様にご披露申し上げて御長寿をお慶びしました。

続いてこの度、植田支部長の後、新に支部長にご就任されました速水支部長よりご挨拶があり、その中で「暗い経済情勢下でも日商岩井は高成績である事、日商岩井は今年で創立七十周年になる事…」との明るいニュースをご提供になり、皆さん深く感銘されました。

引き続き長老の立花實様の「会員の皆様のご健康と辰巳会のよりよき栄光を祝して」とのご挨拶と発声で乾杯をして、新年弥栄を寿く宴会に移りました。

早速爽やかなアサヒビールで喉を潤し、福井の銘酒の浜小町の絶妙な適温の燗酒にて乾杯をされる左利きの方には、まこと素晴らしい限りで、皆さん盃を重ねられ、お料理の方もスエヒロ心尽くしの柔いゴージャスなステーキで、素敵な和やかな雰囲気の新春らしい会場となりました。

スエヒロで燗酒旨し浜小町　　三郎

今日は特に講師のお話がないので、初めに速水支部長よりアジアの経済、金融事情について明快なお話がありました。続いて皆さんより、金子直吉翁は高潔な方で、神戸の三中に当時のお金で二十万もの大金を寄付されたり、町の為に鈴木橋を造られたり、世の為、人の為に尽くされ、亡くなられた時には電話一本が財産だったとか、今のご時世に較べ、ほんとうに貴い事であります。

又、鈴木商店の後に昭和三年二月八日に日商が社員三十九名で創業されましたが、金融恐慌後の不景気のさ中、何処からの支援も無く三十九名の社員が、社運の発展の為に日夜奮闘努力された有意義なお話が続きました。

四十年経し今桜万朶かな
（蕾橋）

三十九名の社員の一人で、金子直吉翁と同郷の土佐のご出身の楓英吉鉄材部長の下で、勤務していた今村頼吉（蕾橋）本会元会員が、創立四十周年を記念して生前作った句でありますが、それから又、三十年の歳月が経ち本年は七十周年、誠にお目出たく心よりお祝い申し上げますと共に、益々のご発展を祈り上げる次第であります。

年の歳月が経ち本年は
日商岩井創立七十周年　　誠

あちら、こちらで昔なつかしい懐旧談に花が咲き、時間が経つのが分らない程でしたが、そろそろ予定の時間になりましたので、池谷幹事さんより「この楽しい会合に皆さん健康に留意されて、又、次回お元気でお目にかかりましょう」との閉会のご挨拶があり、続いて司会の芦原幹事さんより「本日のお土産を帝人、ニッパツより、又、日商岩井よりご芳情を賜わった」とのご報告とお礼をされ、「皆様これからもお元気で再会を致しましょう」とご挨拶があり、二時過ぎにお開きとなりました。皆さん沢山なお土産袋を手にされにこやかに、次回例会に元気で再会を約され家路につかれました。本日は有難うございました。

弥栄に新春迎えて辰巳会
三郎
（S・I記）

辰巳会東京支部新年例会参加者

平成十年一月二十二日㈭
於・築地スエヒロ
（五十音順・敬称略）

芦原有一	田代ヨシ子
荒木正雄	立花實
安東浄	建部清也
移川中	ご同伴
ご同伴	田辺満寿子
池谷政雄	西川明子
池田宗吉	速水優
今村三郎	長橋忠男
請川耿	計十八名
國廣五郎	

東京支部　春の例会

平成十年六月四日㈭
於・東京都江東区
清澄庭園「涼亭」

六月二日には早くも梅雨入りのご託宣、昨年と比べると丁度一週間早い。お天気が心配されたが、天候は常にわれわれの味方、不思議に当日だけ好天の汗ばむ日となった。

今日の会場は東京の下町、江東区清澄にある清澄庭園、緑豊かで美しく静かな一万二千坪の庭園の中心をなす広い池の周囲には全国から取寄せた名石を配し一巡する遊歩道がある。都会の喧燥の中にありながら、それとは無縁の静かなスポットだ。

この庭園は江戸の豪商、紀ノ國屋文左ヱ門の屋敷であったところを明治に入り岩崎弥太が社員の慰安や賓客招待のため造園したもので明治の庭園を代表する「回遊式林泉庭園」で今は東京都の名勝に指定されており都が管理している。

入口から入るとすぐ池で、今日の会食の場所は入口から見て丁度向う側の池畔にあり池の水面にせり出して建てられた数寄屋造りの「涼亭」。迎賓用に岩崎家が建てたもので庭園の日本情緒を豊かにしている。

十二時半集合であったが十二時過ぎには参加予定者十八名全員がお揃いになり、配膳準備で暫し待たされたのち「涼亭」に入った。

約三十畳敷きの広間を巾約二間の広い回廊が三方を廻っており、

回廊から池の景観を楽しみ、池をバックに全員の記念撮影のあと広間座敷に「コ」の字型に配されたテーブルにつき芦原幹事の司会進行で懇親昼食会が始められた。池谷さんから開会のご挨拶をいただき、立花さんのご発声で乾杯、前菜、刺身、揚物、焼物、うなぎ、数々の料理を美味しくいただきながら歓談、それぞれ席を移動しながら話もはずみ楽しい一刻でした。

最後に安東幹事の世相、参院選後の自民党執行部の顔ぶれ予想話など安東節で締めくくりとなり二時半頃解散。

それぞれ皆さんのご健康を祈り、元気で再会を期し、お土産を手にして帰路につきました。　以上

辰巳会東京支部春の例会参加者

平成十年六月四日(木)
於・東京都江東区
清澄庭園「涼亭」
(五十音順・敬称略)

芦原有一	立花實	
荒木義弘	建部清也	
安東浄	ご同伴	
池谷政雄	田辺満寿子	
今村三郎	ご同伴	
ご同伴	西川明子	
移川中	益子洋一	
ご同伴	長橋忠男	
請川耿	計十八名	
田代ヨシ子		

◆原稿募集

内容　随想　短歌　俳句　詩
写真　鈴木往時の思い出　近況などを

必ず原稿用紙に縦書で
四百字詰五枚程度

締切　随時

送先　神戸市中央区磯辺通一丁目一ノ三九
太陽鉱工株式会社内
「たつみ」編集部宛

東京支部　秋の例会

平成十年十月十二日(木)
横浜本牧の三渓園を鑑賞

昨日の大雨が今日は曇りのち晴に好天。辰巳会の集まりの日はふしぎと佳い日和になります。

ＪＲ京浜東北線の根岸駅に午前十時三十分集合。此処から近在の三渓園は、美術愛好家であり生糸貿易商(実業家)の原三渓氏(本名富太郎)によって横浜市中区本牧につくられた広さ一七・五万㎡の広大な日本式庭園で明治三十九年(一九〇六年)に公開されました。

要処をうまく観る為に庭園事務所の方の説明引率で見学をしました。

見学は内苑の白雲邸から始まり、事こまかな説明を聞いて、昔の人の家の中の作りにまつわる部屋の気遣いに、成程と、関心を寄せました。

内苑を出て、続いて別棟の臨春閣を見学。三棟が鉤型になるように配置されており、この配置の理由説明を聞いて、夫々の部屋から見る外観の違いを楽しめることの曰くを知らされました。この三棟から前に在る池をはさんで、遠くに旧燈明寺の三重の塔があり、とても佳い景観にほっとしました。この臨春閣をバックに記念写真を撮りました。

これで二時間程の見学を済まして昼食会場へ移動。

隣花苑（りんかえん）で昼食。この会場名は三渓翁の五言「隣花不防賞」(りんかしょうするをさまたげず)より採って命名された由。

幹事の池谷政雄様から開会のご挨拶を頂き、続いて木村隆昭様(日商の金属部門から日本発条の元副社長)からご挨拶、そして会員の立花實様に乾杯の音頭をとって頂き会食にはいりました。

この古式な田舎家の隣花苑で心のこもった日本料理を味わい、気持に安らぎを得ました。

皆様には歓談が続きましたが、そろそろお時間となり、三時前にお開きに致しました。

お土産に辰巳会から鎌倉の豊島屋の小鳩豆楽と明庵の美味しいお菓子を頂きました。

今回は集合場所の根岸駅から三渓園→隣花苑→(外人墓地、山下公園、ランドマークタワー等を車中から見乍ら)→桜木駅への移動を池谷様(日本発条)のご厚意で同社のマイクロバスを利用させて頂きました。有難うございました。桜木駅で午後三時頃解散致しました。

これからも皆様のご健勝を祈念致します。　(記Ａ・Ａ)

初めて辰巳会 秋の例会に参加して

本年度秋の例会が十月二十二日横浜市本牧の三渓園で催された。当日は生憎曇りがちの天気であったが十五名の方が参加され秋の名庭園鑑賞を楽しんだ。

三渓園は明治の実業家、生糸貿易商の原三渓（本名富太郎）が原家所有の土地に自然を存分に取り入れた日本庭園を造り、明治三十九年に一般公開したものである。

三渓は元々歴史家であり古美術品、稀代名品の蒐集家そして又多くの歴史的文化遺産遺構を移築し、その保存に尽力されると同時に、之等を一般市民に公開提供された優れた文化人であった。

三渓園は外苑と内苑に分かれている。正門を入ると先ず目の前に広がる外苑の蓮池と旧燈明寺三重塔のコントラストが美しい景観に見とれてしまう。今回は時間の関係で内苑を主に拝観する事にした。

内苑は山野の自然の美をそのまま取り入れた原家の私邸であったのを昭和三十三年に初めて公開された。その苑路に沿って白雲邸(三渓の住居と書院)臨春閣(紀州徳川家から数代の所有者を経て三渓が譲り受けた江戸初期の別荘建築)旧天瑞寺寿塔覆堂(秀吉の母大政所に関わる寿塔の覆堂、大徳寺より移築)月華殿(伏見城より数代の手を経て大正七年移築)天授院(旧鎌倉心平寺の地蔵堂)聴秋閣(徳川家光公が二条城内造営後稲葉侯の江戸邸や二条公邸を経て大正十一年原家へ)又茶道を愛し三渓が雅客を招いて度々茶会を催した春草廬、蓮華院、金毛窟等重要文化財に指定された歴史的遺構の数々を拝観した。ざっと一時間半程の見学であったが、この内苑に点在する京都や鎌倉等から移構した寺塔、殿舎、楼閣、茶室を集め、私財を投げ打って造築された庭園は真に貴重な文化遺産であると感激した。

拝観後隣接の料亭隣花苑田舎家(六百年を経過した構築物で経営者は三渓の曾孫)で三渓麺料理の昼食を楽しみ、帰途横浜市内、山下公園、中華街、外人墓地等を眺めながら三時前桜木駅にて解散した。　(木村記)

辰巳会東京支部秋の例会参加者

平成十年十月二十二日(木)
横浜　三渓園　鑑賞
(五十音順・敬称略)

芦原有一	請川耿	
荒木有一	木村隆昭	
安東浄	高村美慶	
移川中	田代ヨシ子	
ご同伴	立花實	
池谷政雄	長橋忠男	
今村三郎	西川明子	
ご同伴	計十五名	